
日 時：平成30年8月20日(水) 13時30分～15時00分

場 所：湯梨浜町役場 第3会議室

出席者：戸羽委員長、中村副委員長、信原委員、山根委員、長委員、福井委員、大田委員、三ツ田委員、
福井委員(代理出席)、米増委員

(事務局)

山田課長、洞ヶ瀬センター所長、岡本課長補佐、植田副主幹、佐々木主事、戸崎社会福祉士、
米原生活支援コーディネーター、田中主任介護支援専門員、石坂主事

計 19 名

1 開 会

2 あいさつ

事務局：朝晩だいぶ涼くなりましたが、まだまだ日中は暑い日が続きますので、皆さま体調には十分注意して頂ければと思います。今日は30年度の第1回目の会議ということで、これまでの活動の報告、それから7月から2層ということでコーディネーターと協議体を含め、社協の方に委託しておりますので、そのあたりも含めて報告をさせていただきたいと思います。それから、これまでの活動の中で見えてきた地域課題がありますので、そのあたりもご報告申し上げて協議していただければと思いますので、よろしくをお願いします。それでは会長さんの方から、一言挨拶をお願いします。

委員長：どうも皆さんこんにちは。泊地域で宇谷の民生委員をしております。よろしくお願ひいたします。先程話がありましたように、今年は本当に暑くて、家におるときは熱中症になって救急車で運ばれんようにと思って、これほどエアコンを毎日つけたのはたぶん初めて。35度を超えるとえらいというより災害みたいなものだ。自分の地区の1人暮らしの方や高齢者の方が熱中症にならなくて、ひと安心して。盆が過ぎると朝晩が涼くなって、寒いように感じた。こういう時に風邪を引く方もおられますので、皆さん気を付けてください。本会議は、年3回行われ、生活支援していくための体制をどう構築していくのか協議する。それぞれの集落によってニーズに大きな違いがあると思います。地域に出かけてニーズを把握し、そのためにどういった事業が必要なのか皆さまの意見を聞きながら本会を進めていきたいと思ひますので、よろしくをお願いします。

今年度2人の委員さんが代わっておられますので、社協の三ツ田さん自己紹介をお願いします。

委 員：湯梨浜町社協の三ツ田です。羽合支部担当ということでよろしくをお願いします。

委員長：それから米増さんあいさつをお願いします。

委 員：シルバー人材センターの事務局長を4月からしております米増です。よろしくをお願いします。昔は福祉のことばかりしていました。よろしくをお願いします。

委員長：その他の方は、昨年度に引き続き、よろしくお願ひいたします。

3 協議事項

(1) 第1層及び第2層生活支援コーディネーターの活動報告について

事務局：資料に基づき、説明。

委員長：コグニサイズとは何ですか。

事務局：足踏みをしながら、引き算やしりとりなどを行うような運動と頭で考える行為を組み合わせたもので、認知症予防に効果的と言われております。資料には「話をする」とあるが、実際は介護予防の実技指導をして、楽しく認知症予防の活動を行いました。

サロンの中で、いきなり地域の話をしなさいと言っても、参加者の方も受け入れが難しいと思ったので、介護予防の話から、「地域で介護予防ができればいいな」というところから地域のことを考えてもらえるようなきっかけづくりになるように、啓発活動を今年度は行っています。

委員長：「人とのつながりチェックシート」とはどういったものですか。

事務局：自分が家族や友人とどれくらいつながりがあるのか、組織に参加しているのか、地域の支え合いはどうかということをチェックシートで振り返っていただくことで、自分自身の生活や地域のことを考えてもらうものです。現在、介護予防教室で取り組んでいます。点数での集計をしていますが、点数にこだわるのではなく、あくまでも本人に振り返ってもらう道具として使っています。人とのつながりがあることで、元気で長生きできたり、病気の予防ができたり、認定を遅らせることにつながることもあるので、自分自身がどれくらい関わりを持っていていいのか振り返っていただきました。

委員：アンケート結果は集計などは取っているのか。

事務局：まとめてはいるが、統計としての数字は、まだ出していない。ある程度取りまとめでき次第、資料としてお渡ししようと思います。

委員：第1層コーディネーターと第2層コーディネーターは誰がしているのか。

事務局：第1層は、町の米原生活支援コーディネーターが担当している。職員もサポートしながら地域をまわっている。今年度から、第2層のコーディネーターと協議体の方を社協に委託させていただいている。第2層を旧町村単位で羽合・東郷・泊の社協のそれぞれの支部の職員さんがコーディネーターを担っていただいている。今日来られている三ツ田さんが羽合地区のコーディネーターで、泊地区が泊支部におられる谷岡さん、東郷地区は東湖園におられる岡本さんに担当していただいております。今日は代表して三ツ田さんが来られています。

委員：基本チェックリストとは別で対応していくのか。

事務局：基本チェックリストのスクリーニングにより、生活機能や、身体機能などで低下が目立った方に対しては早期の介護予防が大切ということで、個別に訪問や電話を行って、介護予防事業に勧誘している。包括として事業の普及啓発を行っています。

委員長：結果を見て、声掛けをされているということか。

事務局：要介護や要支援になっている方を外した、対象者の方に対して予防事業につなげて、介護にならないように元気でいてくださいという事業とリンクさせている。毎年1,000人ぐらいを対象に行っています。

委員：たくさんおるものですか。

事務局：受け皿の筋トレやミニデイの事業につなげている。自記式で書かれるので、本人に確認したらまだまだ元気で予防の対象にはなりませんねって方も中にはいます。認知面低下の方は自分で出来ると思っているので引っかけられない場合もある。

委員長：社協の方は、今までしてないわけではないということですよ。以前から地域の方に出かけて行って、やっているものもあれば、新しく始めたものもあるんですか。

委員：ずっと継続のものを出しています。

委員：町の方もそうですね。

事務局：町の方も要望があれば、地域に出向いて活動をおりましたが、この度、生活支援コーディネーターの配置によって、さらに一歩踏み込んで地域のことを考えようという活動をしています。

これまでは地域に出かけると介護予防や認知症予防のお話をするというところまででしたが、生活支援

ということもあるので、チェックシートを使ったり、困りごとの助け合いゲームをし、地域の困りごとの掘り起こし、町民の皆さんへの意識付けを行っています。

委員長：町のコーディネーターさんが出ている介護予防教室は、地域の方から要望があってということなのか、町の方からやってみないかと提案したものの両方があるんですか。

事務局：地域の方の声があれば、介護予防の話や認知症の話をしてというような要請もありますが、こちらから話をさせて下さいということで取り組んでいます。

委員長：そういう取り組みがどんどん出来ると良いけど、出前授業みたいな感じで介護予防教室とか健康の推進のための教室などを区長なんかに出しとるだろうけど、するとは言わないところもあるだろう。

事務局：出てくる地区は、毎年のように計画的に、定期的に求めて下さるが、出かけないところは本当に出かけないので、こちらから積極的に設定してお願いするのはできないところです。定期開催まで至っていないところもあります。

委員：自分の地域では出前講座をお願いする際に、認知症ばかりではいけないので、それ以外で変わったものもしてくれと要望している。サロンをやっていると、いろんなメニュー考えないといけないから、そういうことは役場に頼んでいる。区長から認知症の話は、まず出ない。

委員長：去年区長している時に、歯医者さんが来てもらい健康教室を開いて、一般の人もどんどん来てもらえるように声かけたけど、あんまり人は来なかった。そういう人に限って本当は認知症になる可能性も高くなると思う。

委員：愛の輪協力員の設置事業について書いてあるが、これは区長と一緒に説明しに行くのか。「区長と自宅を訪問し」とあるが、誰が要請するのですか。

委員：区の方から1人暮らしの方や2人暮らしの方がおられて、普段不安なので見守りが必要ということで社協に依頼が入る。隣近所の方に愛の輪協力員になってもらってもらえませんかとお願ひし、リストに挙げさせてもらって、社協が委託するような形です。

委員：それは支援を受ける人が、「だれだれさんが良い」と希望され、その方に対し、社協の職員が区長と一緒にお願いしに行くのか。

委員：区長がお願いしている。一応この事業はずっと続けており、12月に区長に現在の名簿を出して、変更があったら提出してくださいとお願ひし、毎年更新している。

委員：愛の輪に関して言えば、更新や活動をしていないように感じている。本来なら自分が支援を受けたいのに、支援者になってるとということもある。

委員：やり方もそれぞれで、2日に1回自宅を訪問して「元気ですか」と様子を聞く協力員もおられれば、電気が付いているか付いてないかを確認する協力員もおられる。

委員：愛の輪になってもらうには、双方が合意しないといけないでしょうけど、毎年区長に聞いて更新しているということか。

委員：はい。

委員：地区によっては区長も更新せずにリストを渡しているじゃないかと思っている。実際は把握していないところもあるのでは。

委員長：私も昔区長をしていた時に、民生委員も兼ねていた。愛の輪協力員は高齢の方が多い。大丈夫かって心配になる方や亡くなった方もいる。だいたい愛の輪は若い人がいない。区長は民生委員と相談し、更新していると思う。

委員：更新というのは制度的にはあるが、それをちゃんと実施しているのか。区長さんは1年交代している地区が多い。そういう話が上手く区長の引き継ぎとしてできているのか。制度としては更新というものがあるのだろうが、それが上手くいい形で機能していないように思う。

委員長：誰に愛の輪協力員になってもらうのがいいのか。近くの人がいいのか、遠くても親しい人がいいのか、兄弟の人がいいのかといろいろ迷う。随時更新は必要だと思う。

委員：保健福祉会が中心になって、区長さんがやっているが、事実上は何もしていない。保健福祉会は、実際は事務局みたいなもの。保健福祉会の方が機能していない心配がある。

委員：愛の輪協力員の話をして、誰がいいのか先ず聞いて、あの人をお願いしてやってもらいましょうかと話し合っただけ承諾してもらっている。今の話を聞くと、区長が毎年更新している話があるが、区長がそんなことをしているには見えない。地域によっては、活発なところは区長がやっているかもしれないが、なかなかそんな地域は少ないように思う。

委員長：やっぱりその辺を気付いて動いてもらわないといけない。

委員：災害時の要援護者の登録についても総務課提出するものも全く一緒ではないか。変わった時しか更新しないが、その更新の情報が入ってこない。区長から言うてくることもない。更新して現状を見て変えていって、初めて効力がある。

委員長：福祉のマップ作りも更新しなかったら意味がない。1年たったら中身が変わってくることもある。役員も毎年変わってくるから難しい。マップを作った後も、集会所に張り付けたりしなければ意味がない。張り付けるにしても、個人情報の問題もあり、住民全員の同意を得なければいけないだろう。張った後も住民に知らせなければ、関係者しか知らない状況になってしまう。本来なら、承諾を得てみんなの家に配るのが一番いいのと思うが、そこまでできていない。

(2) 地域が抱える課題について

事務局：資料に基づき、説明。

委員：ここに書いてあるサービスというものは、支援を受けないと出来ないということですか。

事務局：要支援であったり、事業対象者の認定を受けて、ケアマネジャーがついて、ケアプランに沿った支援です。

これから介護に携わる人材が減ってきて、ニーズに対して伸びていかないという予測もされており、そういった原因も踏まえて、地域で出来ることは地域でしょうという考え方が、平成27年度の改正で総合事業なり生活支援という概念が出てきた。この中でみると買い物支援やゴミ出しなどは、専門職でなくても一般の人でもできることだと思いますので、そういったことを地域の支え合いで行えるのが理想ではないでしょうか。今後、町としても進めていきたいと思っているところです。

委員：地図の中に世帯数があるが、総数に対する数字が表示されないと色分けした意味がないし、ピンとこない。協議体の中で議論するときは、具体的な数字をあげてほしい。

事務局：次回からは、数字を出します。出来ていないところばかりでなく、出来ているところも把握していくことも必要だと考えています。

委員長：サロンか何かで出てきた課題だけか。

事務局：地域ケア会議やサロンであったり、日頃の相談業務の中で抽出したもの。逆に助け合いは何をしているのかという部分が把握不足なので、今後把握する必要性があると考えている。

委員長：今年度どういう目標でやっていくのか決めて、それに向けて取り組んでいかないといけない。これからの会議で何を、今年度の終わりまでに何をやるのかということについては、どう思っているのか。

事務局：地域の中でこういった助け合いが行われているのか、こういったところが本当に課題になっているのかということも地域の中で考えていただく取り組みが必要だと思っている。既にある事業も活用しながら話し合いが行える場を作っていくことが重要だと思っている。

委員長：社協の方で、高齢者世帯が多い地域に対して入り込むような事業はあるのか。

事務局：「あったかハートお互い様事業」というのを3年間県のモデル事業でやらせていただいて、長瀬東部と橋津と松崎6区で、年間を通して、地域の皆さんに困りごとないですかという見守り会議をやらせてもらいました。長瀬東部は、高齢化率も高かったが、みんなが助け合って、中部地震が起きた時も、マップ作りも毎年更新されているので、スムーズに避難されていた。橋津は、独自にアンケートを実施したが、みんな問題ないということで特に課題が出てこなかったです。あとは、社協の方で65歳以上の方に困りごとは無いか聞く訪問をしまして、民生委員さんにもご協力いただいていたいて、こういうものをデータ化してみてもいいかなと思っています。

委員長：社協の方で、そういうデータを共有する機会はないか。

事務局：町と社協で情報を共有する機会を設けている。

委員長：シルバー人材センターの方では衣食住に対する頼まれごとは、どういうことをしているのか。

委員：衣食住関係は一切しない。介護関係は一切行っていない。家の中の掃除もトラブルになるので受けないことにしている。大工さんが登録しているので、家の修繕は行っている。課題が多そうなところでも、みんなの問題意識が無い。問題が無いところで何かしようと思っても人が来ない。そういうところが難しいと考える。

委員長：あと2回の会議をどうしていくのか。

事務局：来年度の予算の前に、来年度の事業の内容も含めた会議を開催したい。今回出た課題や方針をモデル地域に働きかけて、目に見える目標として地域にPRしていく方法なども協議していこうと思っている。サロンなどの高齢者に対するアンケートで出てきたニーズだけでなく、全体に対するニーズ把握もしていこうと思うので、協議していきたい。

委員長：ニーズの掘り起こしだとか、来年度の事業に関する協議は予算が12月に出るから、次に協議するのは10月ぐらいかな。

事務局：予定としては11月頃。その頃に社協さんの第2層の協議体も開催予定なので、第2層で協議した内容を第1層の方に持ち上げていこうと思う。

委員長：来年度のことは分かりにくいだろうから、次の会議では出せる範囲でいいので会議に出してほしい。

事務局：新年度に向けて、町としてはこういうことを考えている、社協としてはこういうことを考えているので、予算化してみたいというような提案の仕方になるかもしれませんが、来年度以降、どういう風な事業を進めていき、予算に反映していくのか。その他にも、ニーズから見えてきた必要な事業もあるでしょうし、そのあたりをどういう風に事業として作っていくのかということも協議させてもらえたらと思う。

委員長：委員さんからも、こういうことをしたいという意見をどんどん出してほしい。

事務局：委員さんから意見があったように、資料の地図を手直して、ないない尽くしでなくて、地域でこういう助け合いがあるというようなモデルとなる先進的な事例も含めて出させてもらえたらと思う。

委員長：地域で助け合っているようなことは、たくさんあるだろうから広めていけたら良いと思う。これからど

ういう体制になっていくのか、その辺りが見えるようになればなと思っておりますけど、なかなか難しいと思います。それでも、だんだんと各地域でニーズや困りごとが出てきて、それをどういった形で共有していくのか。最終的には、隣近所で助け合っていかなといけん時代になるだろうから、みなさんとシステムを作っていけたらなと考えている。

4 閉 会